

採択理由

プログラム名：重要政策課題への機動的対応の推進

課題名： 竜巻等の実態および発生予測と対策

代表者名： 田村 幸雄

所属機関名： 東京工芸大学

コメント

本提案は課題の趣旨を踏まえ、竜巻などの突風災害対策について気象学と風工学の両面からのアプローチが計画されている。気象学、風工学の連携を目指す初めての試みであり、竜巻の発生メカニズムの解明、発生の予測、災害の低減を目指した竜巻等の突風災害対策に関する総合的な研究計画が立案されている。竜巻等の突風災害はマイクロスケール気象現象による災害であり、その実態の解明が十分に進んでいない段階で予測手法や災害対策を考えることは困難であるが、我が国のマイクロスケール気象災害の実態解明、予測、災害対策に関する研究のリーディングケースとして実施する意義は高いものと判断された。本提案の研究成果は、今後各府省で進められる具体的な施策に繋がるものと期待される。実施体制は当該分野で十分な実績を持つ機関が参画する計画であり、各機関の分担内容も明確になっている。気象学、風工学の連携、融合による成果が期待され、妥当な体制であると判断された。以上の点から本提案は採択に値すると判断された。

本提案の調査研究期間は1年間、実質9ヶ月となっており、目標設定を明確にし短期の調査研究で成果を纏めることが要求されている。竜巻等突風災害対策に関する研究は今後も継続されることに鑑み、研究全体の枠組みの検討や気象学と風工学の連携を十分に行った上で本提案の調査研究を推進することが求められた。推進にあたり、気象学、風工学の各分野におけるこれまでの研究成果を踏まえ、各研究項目に関して本調査研究終了後も含む今後の長期的な研究の取り組みをロードマップとし

て纏め、本調査研究の位置付けを明確にした上で9ヶ月間の研究目標を設定すること、一連の調査研究の前提となる竜巻等突風現象の発生予測に関して、今後の研究により期待する予測の範囲、確度、手法などを明確化し、気象庁の現業としての竜巻等の突風現象の予測に適用できる成果として纏めることが条件として付された。